

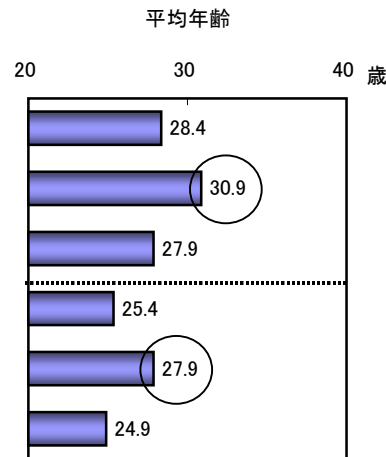
II 「継続無子家族」と「若年無子家族」・「若年一人っ子家族」の比較

1. 結婚意識

○ 平均結婚年齢について、男女とも【継続無子家族】は相対的に高く、他グループと3歳ほどの開きがある。

図表1-1. 結婚年齢(単数回答)(基数:全体) (%)

	5 2 5 歳	2 6 5 2 9 歳	3 0 歳 以上	無 記 入
各グループN=150				
若年無子 家族男性	25.3	44.7	30.1	0.0
継続無子 家族男性	12.0	31.3	56.7	0.0
若年一人っ子 家族男性	30.7	40.0	29.4	0.0
若年無子 家族女性	54.0	42.0	3.3	0.7
継続無子 家族女性	33.4	39.4	26.7	0.7
若年一人っ子 家族女性	58.0	36.7	4.7	0.7



○ 結婚のきっかけについて、男女とも【継続無子家族】は「きっかけはないが一緒に暮らしたかった」が相対的に低く、「自分の年齢を考えて」が相対的に高い状況となっている。

また、女性の場合は「交際期間の長さを考えて」も相対的に低い状況となっている。

図表1-2. 結婚のきっかけ(複数回答)(基数:全体) (%)

	き っ か け は な い が 一 緒 に 暮 ら し た か っ た	自 分 の 年 令 を 考 え て	交 際 期 間 の 長 さ を 考 え て	家 族 ・ 子 ど も が な っ た の で	相 手 の 年 令 を 考 え て	親 が 心 配 し て い る の で	相 手 に 結 婚 を 迫 ら れ て	友 達 ・ 仲 間 の 多 く が 結 婚 し た の で	生 活 に 変 化 が 欲 し く な っ た の で	子 ど も が で き た の で	結 婚 し た 方 が 経 済 的 な の で	親 の 年 令 を 考 え て	転 勤 ・ 海 外 赴 任 が 決 ま っ た の で	近 親 者 が 病 気 に な っ た の で	職 場 の 上 司 か ら 薦 め ら れ て	ライ バ ル が 出 現 し た の で
各グループN=150																
若年無子 家族男性	52.0	36.0	32.7	20.0	23.3	8.0	4.7	7.3	4.0	1.3	6.7	4.0	3.3	1.3	0.7	0.0
継続無子 家族男性	40.7	49.3	20.7	10.0	16.7	9.3	6.7	8.0	4.0	0.0	1.3	3.3	2.0	2.0	0.7	0.7
若年一人っ子 家族男性	46.7	35.3	20.7	24.7	18.0	3.3	4.7	8.0	5.3	11.3	2.0	4.0	4.7	1.3	0.7	0.7
若年無子 家族女性	50.0	25.3	27.3	13.3	9.3	12.0	13.3	6.7	11.3	0.7	10.0	2.0	2.7	0.7	0.7	0.0
継続無子 家族女性	36.0	42.0	13.3	10.0	8.7	15.3	11.3	10.0	8.0	1.3	5.3	2.0	1.3	1.3	0.0	0.0
若年一人っ子 家族女性	41.3	34.0	30.7	18.7	13.3	8.7	14.7	3.3	6.0	16.7	1.3	2.7	3.3	1.3	0.7	0.0

○ 結婚のよい点について、男女とも【継続無子家族】は、「家族や子どもを持てる」及び「好きな人と一緒にいられる」が相対的に低い状況となっている。

また、男性の場合は、「精神的な安定が得られる」及び「人生の喜びや悲しみを分かち合える」が相対的に高く、女性の場合は、「経済的な安定が得られる」が相対的に高い状況となっている。

図表1-3. 結婚のよい点(複数回答)(基数:全体) (%)

	家族や子どもを持てる	精神的な安定が得られる	好きな人と一緒にいられる	人生の喜びや悲しみを分かち合える	社会的な信用が得られる	経済的な安定が得られる	親や周囲の期待に応えられる	一人前の大人だと感じられる	親から独立できる	交友関係が広がる	生活上の不便が無くなる	性的な充足が得られる	あてはまるものはない
各グループN=150													
若年無子家族男性	48.7	65.3	74.7	44.7	22.0	4.7	10.0	16.0	6.7	10.7	10.7	8.7	0.7
継続無子家族男性	32.0	75.3	56.7	54.0	32.0	6.7	11.3	17.3	6.0	9.3	17.3	12.0	0.7
若年一人っ子家族男性	83.3	61.3	62.7	45.3	29.3	4.0	8.0	14.7	8.7	8.7	16.0	14.0	0.7
若年無子家族女性	51.3	74.7	71.3	60.7	17.3	22.7	14.0	11.3	20.0	8.7	9.3	7.3	0.7
継続無子家族女性	24.7	69.3	53.3	49.3	19.3	29.3	13.3	8.7	18.0	13.3	8.7	3.3	3.3
若年一人っ子家族女性	84.7	56.0	62.0	50.0	15.3	16.7	18.7	6.7	10.7	8.7	6.0	4.0	0

○ 結婚のよくない点として、男女とも【継続無子家族】は「自分の自由になる時間が少なくなる」及び「自分の自由になるお金が少なくなる」が相対的に低く、「あてはまるものはない」が相対的に高い状況となっている。

図表1-4. 結婚のよくない点(複数回答)(基数:全体) (%)

	自分の自由になる時間が少なくなる	行動が制限される	自分の自由になるお金が少なくなる	義父母や親戚など人間関係が複雑になる	家事に縛られる	ストレスがたまる	家族扶養の責任が生まれる	仕事やしづらくなる	交友関係が狭くなる	恋愛が自由にならなくなる	親元から離れなければならなくなる	生活のレベル・質が落ちる	あてはまるものはない
各グループN=150													
若年無子家族男性	40.7	44.7	50.0	14.7	4.7	9.3	19.3	0.7	9.3	9.3	1.3	4.0	12.7
継続無子家族男性	30.7	47.3	35.3	20.0	3.3	9.3	14.0	0.0	3.3	7.3	0.0	3.3	26.0
若年一人っ子家族男性	54.0	54.0	58.0	18.0	2.7	11.3	22.0	0.7	7.3	5.3	0.7	3.3	12.7
若年無子家族女性	33.3	34.0	37.3	42.7	26.7	16.0	8.0	14.7	10.7	11.3	16.7	4.0	10.0
継続無子家族女性	30.7	38.7	22.7	51.3	32.0	21.3	6.0	11.3	6.7	8.7	6.7	5.3	13.3
若年一人っ子家族女性	56.0	48.7	44.7	46.7	38.0	28.0	7.3	19.3	12.0	8.0	10.7	2.7	5.3

2. 家族意識

○ 子どもの位置づけについて、【継続無子家族】は、「生きがい・喜び・希望」、「無償の愛を捧げる対象」及び「夫婦の絆を深めるもの」が相対的に低く、「独立した一人の人間」及び「自分の血を後世に残せるもの」が相対的に高い状況となっている。

図表2-1. 子どもの位置付け(回答3つまで)(基数:全体)

(%)

各グループN=150	生きがい・喜び・希望	無償の愛を捧げる対象	夫婦の絆を深めるもの	独立した一人の人間	自分の血を後世に残せるもの	自分の分身	社会的資産	配偶者の分身	経済的負担を与えるもの	老後の面倒を見る人	精神的負担を与えるもの	ライバル
若年無子家族男性	66.0	36.7	46.0	28.0	32.0	21.3	3.3	8.7	4.7	2.0	1.3	0.0
継続無子家族男性	55.3	30.0	33.3	30.7	44.7	22.7	7.3	8.0	4.0	2.0	1.3	1.3
若年一人っ子家族男性	88.7	59.3	42.7	15.3	20.0	24.0	4.7	4.7	1.3	2.7	0.7	2.0
若年無子家族女性	66.0	53.3	48.0	26.0	19.3	17.3	2.0	10.7	8.0	1.3	3.3	0.0
継続無子家族女性	46.7	40.7	30.0	40.0	30.7	15.3	7.3	5.3	6.0	3.3	4.0	0.7
若年一人っ子家族女性	79.3	71.3	39.3	29.3	12.0	22.7	3.3	4.0	0.0	0.0	2.0	0.7

○ 子どもに残したい・伝えたいものについて、男女とも【継続無子家族】は、「親子の絆」が相対的に低い状況となっている。

図表2-2. 子どもに残したい・伝えたいもの(回答3つまで)(基数:全体)

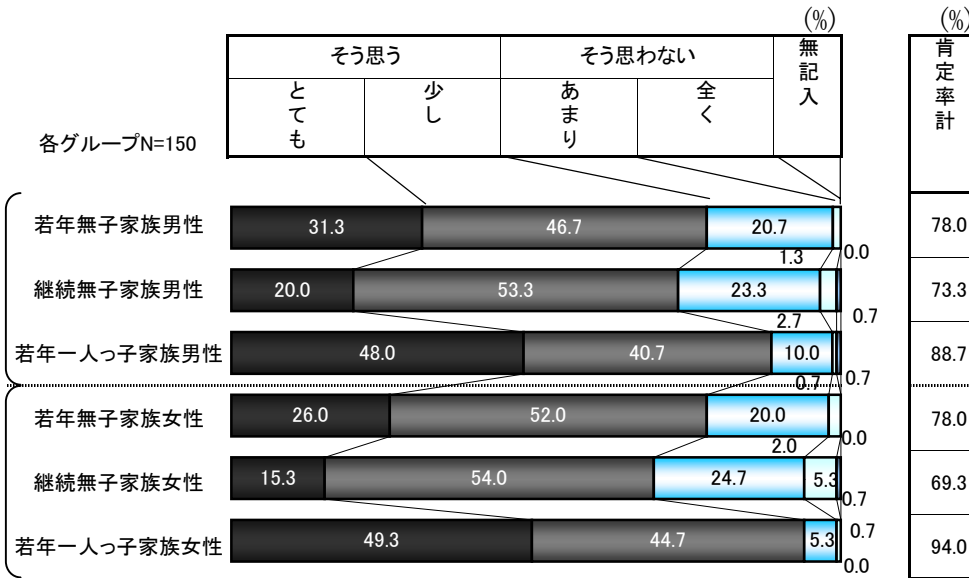
(%)

各グループN=150	強生きて行く上での知恵	愛	親子の絆	人生の素晴らしさ	自分の人生観	財産	家訓・先祖から守ってきたこと	ネットの付き合い	自分の夢	仕事・家業	築いてきた地位
若年無子家族男性	71.3	30.0	35.3	28.7	21.3	15.3	4.7	5.3	4.0	4.7	0.0
継続無子家族男性	66.7	26.0	26.7	30.7	19.3	12.0	6.7	2.0	2.7	4.0	0.7
若年一人っ子家族男性	76.7	28.7	39.3	31.3	13.3	14.0	6.7	3.3	4.7	2.7	0.0
若年無子家族女性	74.0	50.7	38.0	30.7	8.7	8.0	6.7	6.0	4.7	0.7	0.0
継続無子家族女性	78.0	44.0	26.7	32.0	10.0	8.0	8.0	1.3	2.0	0.7	0.0
若年一人っ子家族女性	84.7	46.7	42.7	22.7	3.3	14.0	3.3	1.3	2.7	0.0	0.0

3. 育児意識

○ 『子育ては辛いことより楽しいことの方が多いはずだ』に対する意見について、【継続無子家族】では肯定する者の割合が男女とも7割前後であるのに対し、【若年一人っ子家族】では9割前後に達している。

図表3-1. 『子育ては辛いことより楽しいことの方が多いはずだ』に対する意見(単数回答)(基数:全体)



○ 理想の子ども数はそのグループの男女とも「2人」が最も多いが、【継続無子家族】の女性の平均は1.83人と少ないものの、理想の人数と持つつもりのある人数の差は1.34と最も大きい。

また、今後子どもをもうける意向のある者は、【継続無子家族】の男性では6割、女性では3割と男女間の差が大きい。

図表:3-2.理想の子ども数、今後子どもをもうける意向とその人数(各単数回答)(基数:全体)

各グループN=150	理想の子ども数					今後子どもをもうける意向率 (%)	今後もうける予定の子ども数		平均子ども数(人)		
	1人	2人	3人	4人以上	子どもをもうけたくはない		1人	2人以上	理想の人数	持つつもりのある人数	理想と持つつもりの差
若年無子家族男性	6.0	59.3	28.7	3.3	2.7	90.0	14.7	75.3	2.25	1.79	0.46
継続無子家族男性	4.7	60.7	24.7	0.0	10.0	62.7	27.3	35.4	2.00	1.03	0.97
若年一人っ子家族男性	4.0	61.3	32.0	2.7	0.0	76.7	62.7	14.1	2.34	1.93	0.41
若年無子家族女性	6.0	54.7	30.7	4.0	4.7	92.7	23.3	69.3	2.23	1.76	0.47
継続無子家族女性	6.0	51.3	21.3	2.7	18.7	32.7	16.7	16.0	1.83	0.49	1.34
若年一人っ子女性家族	7.3	51.3	39.3	2.0	0.0	58.0	50.7	7.4	2.36	1.22	1.14

○ 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由について、男女とも【継続無子家族】は、「経済的負担が大きいから」が相対的に低く、「子どもができないから」や「高年齢出産になるから」が相対的に高い状況となっている。

図表3-3. 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由(複数回答)

(基数: 理想より持つ予定数が少ない人および子どもは持たない人) (%)

	n	経済的負担が大きいから	高年齢出産になるから	健康・体力に 自信がないから	子どもができないから	心理的負担が大きいから	時間のゆとりが なくなるから	将来が子どもにとつて よい環境とは思えない	子どもを育てる 自信がないから	自分の人生を生きる の一杯だから	家が狭いから	末子が定年退職し まで成人して欲しいから	配偶者の育児への 協力ができないから	夫婦2人だけの生活 を楽しみたいから	もともと子どもが 好きではないから
若年無子 家族男性	54	63.0	9.3	5.6	11.1	11.1	5.6	13.0	9.3	11.1	5.6	7.4	3.7	11.1	3.7
継続無子 家族男性	100	23.0	47.0	15.0	52.0	9.0	9.0	15.0	7.0	5.0	2.0	6.0	3.0	11.0	0.0
若年一人っ子 家族男性	57	73.7	5.3	14.0	12.3	12.3	10.5	5.3	1.8	3.5	14.0	5.3	1.8	1.8	0.0
若年無子 家族女性	61	67.2	13.1	14.8	18.0	14.8	16.4	13.1	18.0	11.5	4.9	3.3	6.6	11.5	8.2
継続無子 家族女性	132	22.7	46.2	21.2	53.8	13.6	8.3	18.9	17.4	13.6	1.5	2.3	4.5	10.6	11.4
若年一人っ子 女性家族	87	66.7	12.6	26.4	17.2	14.9	16.1	11.5	2.3	3.4	11.5	4.6	23.0	0.0	1.1

4. 自己意識・社会意識

○ 男女とも【継続無子家族】は、「親孝行」や「恩返し」をすることは大事なことだ」といった伝統的価値観が相対的に低く、「社会がよくなってこそ個人が幸せになる」や「政治や社会問題に関し議論するのが好き」が相対的に高い状況となっている。

図表4-1. 価値観(複数回答)(基数: 全体)

(%)

	親孝行をすることは 大事なことです	世の中には、不公平な ことが多いと思う	日本の社会通念や習慣は 男女平等と思わない	恩返しをすることは 大事なことです	個人の権利や自由を 尊重することは大事だ	社会が良くなってこそ 個人が幸せになる	日本人であることを 誇りに思う	間違っていると思う人が いれば、注意する	政治や社会問題に関し 議論するのが好き	自分の能力や生き方に 自信を持つていき	まじめに努力すれば、 報われる社会だと思う	自分の将来は明るい	誰もみでなければ 規則を破って構わない	21世紀は希望に満ちた 社会になると思う
各グループN=15														
若年無子家族男性	77.3	70.0	42.0	60.7	50.7	39.3	27.3	22.7	20.0	20.0	5.3	11.3	2.7	2.7
継続無子家族男性	66.0	60.7	47.3	51.3	52.7	46.0	28.7	18.0	26.7	20.0	10.7	6.0	2.0	4.7
若年一人っ子 家族男性	67.3	70.0	46.7	56.0	44.7	39.3	30.7	22.7	13.3	19.3	7.3	8.7	5.3	1.3
若年無子家族女性	82.7	54.0	50.7	57.3	56.7	36.0	23.3	10.7	7.3	15.3	5.3	12.7	1.3	0.0
継続無子家族女性	67.3	69.3	46.7	44.7	41.3	50.0	23.3	10.0	11.3	6.7	4.7	2.0	0.0	0.7
若年一人っ子 女性家族	76.0	68.7	54.0	50.0	42.7	40.0	12.0	14.0	8.0	4.7	5.3	4.7	0.7	0.0

○ 現在及び将来の不安について、男女とも【継続無子家族】は、「老後の生活」が相対的に高い状況となっている。
 また、男性の場合には、「親の介護」が相対的に高く、「国の経済・景気」、「自分の進路・将来」及び「財産・貯蓄の目減り」が低い状況となっている。
 一方、女性の場合は、「自分の健康・病気」、「国の経済・景気」、「日本の将来・行方」及び「リストラ・失業」が相対的に高い状況となっている。

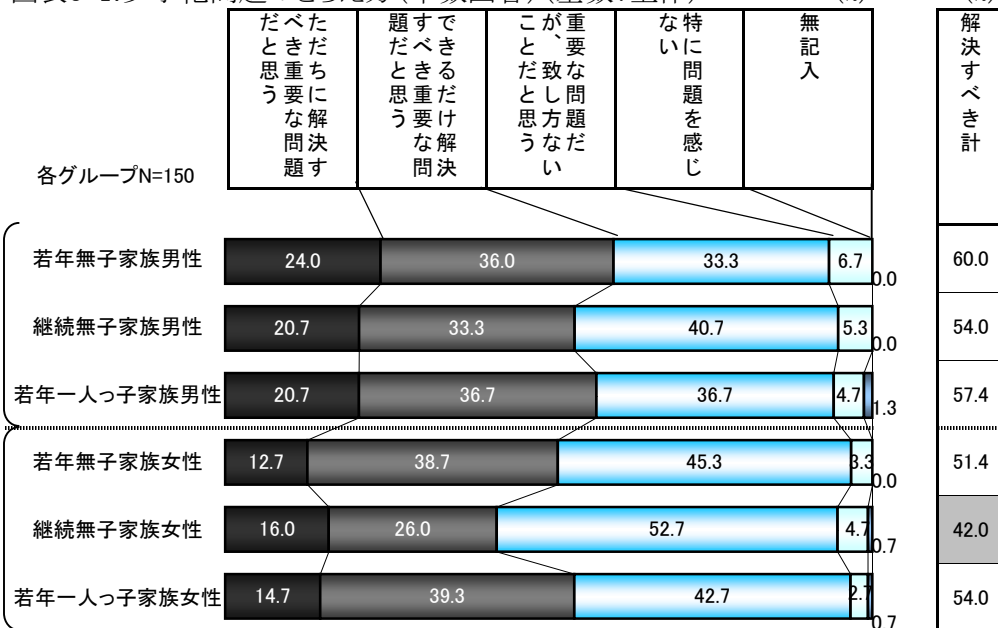
図表4-2.現在及び将来の不安(複数回答)(基数:全体) (%)

	家族の健康・病気	自分の健康・病気	老後の生活	国の経済・景気	親の介護	社会の治安	給与・年収のダウン	日本の将来・行方	子どもの将来	リストラ・失業	自分の進路・将来	財産・貯蓄の目減り	妊娠・出産	結婚・離婚	自分の会社・将来
各グループN=150															
若年無子家族男性	56.7	51.3	39.3	54.7	30.0	32.7	45.3	40.0	10.7	29.3	28.7	20.0	22.0	6.0	20.7
継続無子家族男性	61.3	56.0	55.3	40.7	38.7	35.3	42.7	45.3	4.7	26.0	15.3	16.0	15.3	2.7	22.7
若年一人っ子家族男性	68.0	55.3	40.0	49.3	27.3	37.3	47.3	44.0	56.0	20.0	22.7	21.3	2.0	3.3	27.3
若年無子家族女性	66.0	44.7	50.7	43.3	37.3	39.3	38.0	30.7	9.3	21.3	14.0	23.3	60.7	4.7	3.3
継続無子家族女性	70.7	60.0	73.3	53.3	56.7	46.0	40.7	39.3	0.7	27.3	14.0	22.0	21.3	1.3	4.0
若年一人っ子家族女性	69.3	46.7	47.3	42.7	56.0	43.3	42.7	27.3	64.7	22.0	7.3	18.0	12.7	6.7	2.0

5. 少子化についての考え方

○ 少子化問題のとらえ方について、【継続無子家族】は、「ただちに解決すべき重要な問題だと思ふ」又は「できるだけ解決すべき重要な問題だと思ふ」と回答した者の割合が、男性で5割強、女性で4割強となっており、【若年一人っ子家族】と比べて女性で1割程度低くなっている。

図表5-1.少子化問題のとらえ方(単数回答)(基数:全体) (%)



6. 【継続無子家族】についてのまとめ

- 【継続無子家族】は、平均結婚年齢が【若年無子家族】及び【若年一人っ子家族】に比べて3歳ほど高く、年齢的なきっかけから結婚に至ったケースが多い。
- また、結婚のよくない点について「あてはまるものはない」と答える人が他のグループより多く、現在の結婚生活の満足度は高い傾向にある。
- 今後持つ子どもの数と理想の子ども数との開きが他グループに比べて大きく、今後子どもをもうける意向がある人も男性では6割、女性では3割にとどまる。この要因としては、経済的負担が大きくなることよりも不妊や高年齢出産を避けたいという意識が働くことによるところが大きい。
- さらに、『子育ては辛いことより楽しいことが多い』と受け止める者が7割前後と他グループに比べて少ないが、実際に子どもを持っている【若年一人っ子家族】では9割前後に達している。
- また、「親孝行」や「恩返し」という伝統的価値観が低い一方で、社会への要求が高い状況が見受けられる。
- したがって、【継続無子家族】については、【継続独身】と同様に、個人や自分を強く意識する傾向がある中で、より若い時代から、子どもを生み、育てることの意義や大切さを伝える取組を推進することが必要である。